

甲状腺外科草子 109

中津の西洋医学：大江医家

杉野 圭三

先日、「中津で一万歩」という TV 番組を見た。「豊前中津」といえば福沢諭吉出生の地として有名で、多くの観光客は福沢諭吉記念館、中津城、耶馬溪の3か所のみを巡る。



中津市

福沢諭吉生家

この地で蘭学が盛んとなったのは、中津藩四代目藩主の奥平昌高 (1781-1855) の影響が大きい。昌高は前野良沢に蘭学を学び、日本最初の和蘭辞書「蘭言訳撰 (神谷弘孝編集)」や日本で3番目の蘭和辞書「バスタールド辞書 (大江春塘編集)」を刊行した。



奥平昌高

蘭言訳撰

バスタールド辞書

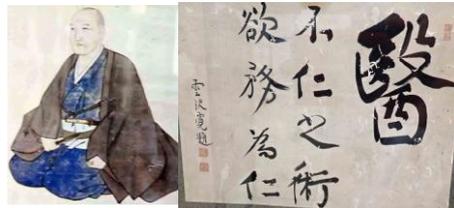
その影響でこの地には西洋医学を学んだ医者も多く、貴重な資料が残されている。その一つが大江医家資料館である。



JR 中津駅前

大江医家資料館

小倉から日豊本線ソニック号で約 30 分、中津駅前の諭吉像を横目で見ながら、歩いて約 15 分、地元の人にもあまり知られていない。



大江玄仙

務めて仁をなさんと欲す

大江家二代目の大江玄仙 (1710-1792) は

1754 年長崎で南蛮流 (栗崎流) の外科を栗崎道喜らから学び、23 年間奥平中津藩の御典医を務め、「医は仁ならずの術 務めて仁をなさんと欲す」という言葉を残した。



解体新書 (初版)

ターヘルアナトミア

この史料館には、『解体新書』、『ターヘルアナトミア』、華岡青洲から贈られた漢詩、田原淳などの豊富な史料が展示されている。

中津出身の医学者田原淳(すなお)は世界的に有名である。東京大学卒業後、明治 36 年ドイツのマールブルグ大学へ留学。



田原淳 (1873-1952) 留学中 (後列左端)

病理学教室で L.Aschoff に師事、哺乳類の心臓筋肉について研究し、同 39 年心臓刺激伝導系に属する房室結節を発見、田原結節またはアショッフ=田原結節と名付けられた。帰国後、福岡医科大学 (現九州大学医学部) の助教授、35 歳で教授就任、名誉教授となる。

この資料館の裏庭には薬草園もあり、華岡青洲の通仙散「麻沸散」の材料となったチョウセンアサガオなどが栽培されている。



華岡青洲書 チョウセンアサガオ その実

この地で青洲が門下生卒業時に贈った漢詩「唯思起死回生術 何望輕裘肥馬門」に思いを馳せるのも一興であろうか。

参考資料：中津藩蘭学の系譜、Wikipedia、

(一甲状腺外科医の徒然なる随想)

2024 年 8 月 7 日